



2004年5月17日深浦にて撮影。

アカテガニは名前のようにハサミ脚が赤いのですが、左の写真のように全身が赤い個体もあります。この場合、ベンケイガニと間違えやすいのですが、ベンケイガニは体の側面の前の方に切れ込みがあります。アカテガニにはこの切れ込みがありません。

アカテガニのような半陸生のカニは体内に水を取り込み、何度も鰓（えら）を通過させ、水中の酸素を利用します。そのため、陸上で長時間過ごせるのです。しかし、やがて粘液が混じり、水の粘性が高くなります。そうすると泡を吹くようになり、危険な状態となります。

河口からかなり上の川岸にもアカテガニは生息します。鏡川では紅葉橋付近でも見かけます。多くの場合、石組み護岸や石垣のすき間に生息します。また、田んぼの近くでも見かけます。



2004年5月18日衣ヶ島にて撮影。

7月から9月の大潮時、夜間の満潮時にアカテガニは放仔（ほうし）します。カニは普通、卵を放出（産卵）しますが、アカテガニでは抱卵中に発生が進み、卵が孵化してゾエア幼生になる瞬間にこれを放出するのです。アカテガニの体内には月齢を知る仕組みがあり、幼生が一番効率よく拡散できるタイミングが分かるのです。

2004年9月15日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。